

## これからのキャリア

ちがみ よういち  
千頭 洋一

●UAゼンセン千葉県支部・次長

今春、長男が製造業の中堅企業に就職し、半年余り経った。本人は仕事にも慣れてきたようで、安心してきているところである。思えば1年数か月前は、「内定が取れない」という現実、本人も私も思い悩んでいた。長男は、経験や技能におけるアピールポイントが乏しく、漫然と大学生活を過ごしてきたから、この状況も仕方なかったかもしれない。ただ、全てのケースで良い結果が伴わないのは学生の自己責任、自助努力不足によるものと決めつけてよいだろうか。彼ら彼女らの社会的な知識、認識不足ばかりを責めるのは酷である。

近年は、一般的には売り手市場と言われ、新卒者の募集採用数確保が困難な企業も少なくない。本人の資質は申し分なくても、就職活動においてターゲットの業界や企業と本人の適性がうまくマッチングせず、結果として内定が取れない学生も当然いるだろう。こうした状況に直面した学生の中には、「自分は社会から受け容れられない」と思い込み、就職活動を止めてしまったり、精神を病んだり、最悪の場合は自殺に至ることもある。

望んでいた職業生活のスタートラインに立てなかったからといって、絶望すべきではない。ただ、働きがいのある仕事に就いて社会的な使命を果たし、生活の糧を得ることが十分に叶わないとしたら、本人の精神的な落ち込みは相当大きなものだろう。若者のこれからの貴重な労働力が、十分に活かされなければ、そのことによる社会的損失も大きすぎるのではない

か。いわゆる就職氷河期といわれた長い期間を含め、どれほど多くの若者たちが、こうした先を見通せない不安と闘ってきたのだろうか。

自分もそうだが、就職活動というと「知名度や待遇が高く、そこに属することが客観的な自分の価値を高められる企業」から先にアプローチする傾向があると思う。知名度や待遇はそれほど高くなくても、従業員のことを大切に、安定的に成長している企業とそこでいきいきと働く人達は確実に存在している。多様な情報が溢れている現在、就職先を求める当人にとって本質的に有効な情報が届いていないのではないか。

大卒新入社員の約3割が3年以内に離職している。これについては、若者たちの弱さやゆとり教育等が問題視されがちだが、会社と本人の適性のアンマッチによるネガティブな要因も少なくないだろう。この離職者の中にも、うつ病等のメンタル不調者が相当数おり、転職を困難にしているケースも多いと考えられる。

星の数ほどある企業と求職する学生のマッチングが難しいのは確かだが、労働組合が企業や大学、行政等と連携をとり、このマッチング機能強化に取り組めないだろうか。労働組合は、働く者の視点に立って、学生のキャリア形成にむけた本当に有効な情報提供が可能だと思う。ぜひ、これから労働者のキャリアを築いていこうとする真面目な若者たちを支援していきたいものである。